

# 上級日本語学習者の非限定的名詞修飾の使用実態 —作文のジャンルによる違いに注目して—

徐 乃馨

## 1. 研究背景

日本語の名詞修飾には限定的名詞修飾と非限定的名詞修飾がある。限定的名詞修飾は文脈上、単独では指示対象が同定できない「動物」「人」などの普通名詞を修飾するのに対し、非限定的名詞修飾は、名詞修飾に頼らずとも指示対象が同定できる「源氏物語」「田中さん」などの名詞を修飾する。また、非限定的名詞修飾は被修飾名詞や主節に対する補助的、背景的情報を付加するなどの働きをする。そして、非限定的名詞修飾で表現することによって、談話において本筋を明確にしたり、新情報を導入したりすることが可能になる（庵ほか 2001、日本語記述文法研究会編 2009）。

日本語学習者は中上級になるにつれ、複数の文から談話を構成させる必要がある。その際、接続詞や接続助詞を駆使し、文と文をつなげることが重要視されてきた。しかし、接続詞、接続助詞だけでは、談話として結束性を感じにくく、場合によっては拙い印象を与えてしまうことがある。その際、より分かりやすく伝えるために、このような本筋の明確化と新情報の導入などの機能を果たす非限定的名詞修飾を用いることが効果的である。

一方、学習者による名詞修飾の使用は、中上級になっても難しいとされている（増田 2002、徐 2019a）。どのようにして非限定的名詞修飾の習得を促進させることができるのかを解明するために、学習者の使用実態を解明する必要がある。

## 2. 先行研究と本研究の位置づけ

### 2.1. 先行研究の成果

これまでの研究では、日本語学習者の名詞修飾の使用は、日本語母語話者と異なると考えられている（増田 2002、奥川 2011、矢吹ソウ 2013、徐 2018、2019a、2019b）。具体的には、ストーリー描写において談話展開機能がある「行為主体者」「時間差あり」タイプの名詞修飾は、日本語母語話者より学習者の使用が少ないとされている。その影響要因は、母語の影響（矢吹ソウ 2013、徐 2018、2019a、2019c）、作業課題の影響（徐 2019b）、習熟度の影響（徐 2019b）があるとされている。

母語の影響について、学習者の母語における名詞修飾使用の選好傾向（矢吹ソウ 2013、徐 2019a）、主語・目的語・述語の語順や、名詞修飾部と被修飾名詞の語順（徐 2018）が目標言語である日本語の名詞修飾の使用に関わっている可能性があると考えられている。

作業課題の影響について、日本語母語話者と韓国語母語話者は話す課題より書く課題のほうでより多くの名詞修飾を使用するが、中国語母語話者は話す課題と書く課題の間で名詞修飾の使用に差が見られなかった（徐 2019b）。

また、習熟度の影響について、中級から上級に上がるにつれ、名詞修飾の使用が増加するとされている(徐 2019b)。習熟度と関連して学習期間の影響を調べた縦断的調査の結果、学習期間が長くなるにつれ、名詞修飾の使用が増加することが報告されている(徐 2019d)。

## 2.2. 残された課題

上述した先行研究はすべてストーリー描写を分析したものである。確かに、ストーリー描写は、出来事をわかりやすく伝えるという意味で、日常生活はもとより、メカニズムや連鎖反応を説明する科学的な文章などにも出現しやすく(増田 2001)、日本語学習者にとって重要なジャンルの一つである。

しかし、ストーリー描写だけでは名詞修飾の分析に偏りが生じてしまい、十分に名詞修飾の機能を考察できないと考えられる。したがって、ストーリー描写以外のジャンルにおける名詞修飾の使用実態を調査する必要がある。特に、学習者は中上級になり、より複雑な事態を説明する説明文や、意見を主張する意見文などのジャンルを書く機会が増加する。

また、異なるジャンル間では、受身や使役の使用(庵・張 2017)や、「と思う」の使用(永谷 2017)が異なることが先行研究で示唆されている。名詞修飾や非限定的名詞修飾の使用については、複数のジャンルの作文を調査したものは管見の限り見られないが、ほかの学習項目同様、ジャンル間でその使用傾向が異なるのだろうか。同一人物による複数のジャンルにおける名詞修飾の使用実態を比較できれば、名詞修飾機能のより多角的な分析にもつながると考えられる。

## 2.3. 本研究の研究課題

そこで、本研究は、JCK 作文コーパス(石黒編 2017)を利用し、日本語母語話者と上級日本語学習者による説明文と意見文という二つのジャンルの作文を調査し、ジャンルによる非限定的名詞修飾の使用傾向の違いを比較分析する。

具体的には、本研究の研究課題は以下の通りである。

<RQ1>日本語母語話者は、説明文と意見文とで、非限定的名詞修飾の使用傾向は同じなのか。

<RQ2>上級学習者は、説明文と意見文とで、非限定的名詞修飾の使用傾向は同じなのか。

<RQ3>上級学習者と日本語母語話者とで、非限定的名詞修飾の使用傾向は同じなのか。

## 3. 調査方法

### 3.1. 使用データ

使用するデータは、JCK 作文コーパスに収録されている日本語母語話者と上級日本語学習者による説明文と意見文という2つのジャンルの作文である。

JCK 作文コーパスは日本語母語話者(以下 JNS)、中国語母語話者(以下 CNS)、韓

国語母語話者（以下 KNS）による説明文、意見文、歴史文の3つのジャンルの合計180本の日本語の作文が収録されている作文コーパスである（表1）。JNS は日本在住の日本人大学生、CNS は中国在住の中国人大学生、KNS は韓国在住の韓国人大学生である。また、KNS と CNS は JLPT の N1 合格者及び合格相当の力を持っていることが確認されている上級学習者である。作文のトピックは、説明文は「自分の故郷について」、意見文は「晩婚化の原因とその展望について」、歴史文は「自分の趣味（昔から続けていること）について」である。作文の長さはいずれも2000字前後である。これは400字から800字の作文からなる従来の学習者作文コーパスと比べ、比較的長いものといえる<sup>1</sup>。

表1 JCK 作文コーパスの作文の内訳

|     | 説明文 | 意見文 | 歴史文 |
|-----|-----|-----|-----|
| JNS | 20  | 20  | 20  |
| CNS | 20  | 20  | 20  |
| KNS | 20  | 20  | 20  |

表2 本研究で使用する作文の内訳

|     | 説明文 | 意見文 |
|-----|-----|-----|
| JNS | 15  | 15  |
| KNS | 15  | 15  |

本研究は、JCK 作文コーパスに収録されている JNS と KNS それぞれ15名による説明文（「自分の故郷について」）と意見文（「晩婚化の原因とその展望について」）を分析する（表2）。使用データ選出の理由について以下に述べる。

JCK 作文コーパスを採用する理由は2つある。まず、中上級の日本語学習者の比較的に長い作文が収録されているからである。名詞修飾の使用は、接続詞、接続助詞同様、複数の文や段落においてはじめて使用されるため、長い作文は名詞修飾の使用を調査するのに向いているといえる。次に、JCK 作文コーパスでは、3つのジャンルの作文が収録されているため、ストーリー描写以外の複数のジャンルにおける名詞修飾の使用実態が調査することという研究目的に合致するからである。

JCK 作文コーパスに収録されている作文のうち、執筆者を JNS と KNS だけにしたのは、以下の2つの理由がある。まず、先行研究からは、名詞修飾の使用に学習者の母語が影響することが明らかになっている。特に、中国語母語話者と韓国語母語話者の場合、日本語の名詞修飾構造により類似している韓国語を母語とする学習者のほうが、中国語母語話者より名詞修飾を多用し、日本語母語話者により近い使用が見られることが報告されている（徐 2019a, 2019b）。そのため、まず KNS の使用実態を調査することにより、学習者の使用の上限を見極めることができると考えられる。また、JNS も調査対象にしたのは、先行研究に倣い、日本語母語話者の使用を一つの基準値として明らかにすることで、学習者の使用傾向と比較することが可能だからである。

<sup>1</sup> 従来の学習者作文コーパスは400字から800字が多い。例えば、「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」（作文対訳DB）に収録されている作文は400字から800字であり、「LARP at SCU コーパス」に収録されている作文は600字程度である。

JCK 作文コーパスに収録されている作文の全数ではなく、JNS と KNS の説明文と意見文の 2 つのジャンルのそれぞれ 15 本だけにしたのは、同一人物執筆の複数のジャンルの作文を調査したいからである。JCK 作文コーパスには、各母語話者によるそれぞれのジャンルの作文数は 20 本であるが、執筆者 ID で分析したところ、JNS を含め、各母語話者の執筆者は 20 名以上であることがわかった。つまり、3 ジャンルをすべて同一人物による作文ではないということである。また、各ジャンルの作文を執筆した人を調べた結果、説明文と意見文を両方執筆した JNS は 18 名、KNS は 15 名であることがわかった。そのため、両方執筆した KNS の 15 名に合わせ、JNS も無作為に 15 名を抽出して、調査対象とした。

### 3.2. 調査対象

本研究の調査対象について、名詞修飾と非限定的名詞修飾に分けて、以下にその抽出基準を述べる。

本研究でいう「名詞修飾」は、大関（2008）などを参考に、被修飾名詞が修飾節の中で述語の主語や補語や状況語にあたるような格関係を持つもの、とする。具体的には、動詞（パンを食べている子供）、形容詞で補語を伴うもの（駅に近いマンション）、形容詞で過去形のもの（美味しかったコーヒー）、「名詞+だ／である」（担任である田中先生）などである。

分析対象から除いたのは、被修飾名詞が修飾節における格関係をもたないもの（日本語を教える仕事）、形式名詞（食べたもの）、準体助詞（買ったのを忘れて）、語による名詞修飾、例えば、連体詞によるもの（そんな子供）、「の」を介するもの（山田さんの服）、形容詞で補語を伴わず非過去のもの（有名な場所）などである。

また、限定的名詞修飾と非限定的名詞修飾の基準は、名詞修飾を取り除いて、被修飾名詞が指示する内容の外延に変化があるか否かである。変化があるものは限定的名詞修飾（結婚という形式を選ぶカップル）、変化がないものは非限定的名詞修飾とする（冷え性に悩む母）。

### 3.3. 分析手順

まず、作文のテキストデータから 3.2. で述べた基準に基づき、名詞修飾を抽出する。次に、抽出された名詞修飾を限定的名詞修飾と非限定的名詞修飾に分類する。次に、名詞修飾、限定的名詞修飾、非限定的名詞修飾の使用頻度を、母語別、ジャンル別に集計する。最後に、統計検定を行う。ジャンルによる違いを調べるため、ウィルコクソンの符号順位和検定を、JNS、KNS 間の違いを調べるため、マン・ホイットニー検定を行う。

## 4. 結果と考察

調査結果を量的と質的に分けて分析したうえで、考察を行う。

#### 4.1. 量的分析

まず、量的結果から述べる。JNS と KNS による説明文と意見文における非限定的名詞修飾の使用頻度を表 3 に示す。

表 3 一人当たりの非限定的名詞修飾の使用頻度

| 母語 (人数)  | 説明文 (SD)    | 意見文 (SD)    |
|----------|-------------|-------------|
| 日本語 (15) | 7.67 (3.07) | 3.93 (2.17) |
| 韓国語 (15) | 6.33 (3.16) | 1.40 (1.58) |

まず、作文のジャンルによる違いについて述べる。非限定的名詞修飾の使用は、JNS と KNS は共通して、意見文より説明文のほうでより多くの非限定的名詞修飾を使用することがわかった。ウィルコクソンの符号順位和検定を行った結果、JNS も KNS も、意見文より説明文のほうでより多くの非限定的名詞修飾を使用していることがわかった (JNS :  $z=-2.53, p<.01$ 、KNS :  $z=-3.27, p<.01$ )。

次に、日本語母語話者と学習者の違いについて述べる。説明文においては、JNS は一人当たり 7 回以上、KNS は一人当たり 6 回以上の非限定的名詞修飾の使用が見られ、KNS は JNS と同程度の非限定的名詞修飾を使用している。一方、意見文における非限定的名詞修飾は、JNS は一人当たり 4 回近くの使用が見られるが、KNS は一人当たり 1 回程度の使用しか見られず、JNS より少ない印象を受ける。マン・ホイットニー検定を行ったところ、説明文における非限定的名詞修飾の使用は、JNS、KNS の間に有意差が見られなかった ( $U=86.50, p=.28, n.s.$ ) が、意見文における非限定的名詞修飾の使用は、JNS は KNS より有意に多いことがわかった ( $U=37.50, p<.01$ )。

2.3. で述べた研究課題への回答を以下にまとめる。まず、日本語母語話者は意見文より説明文でより多くの非限定的名詞修飾を使用する。次に、上級学習者も日本語母語話者同様、意見文より説明文でより多くの非限定的名詞修飾を使用する。また、非限定的名詞修飾の使用傾向は、上級学習者と日本語母語話者とで説明文と意見文で異なる。説明文では、上級学習者と日本語母語話者は同程度の非限定的名詞修飾を使用している。一方、意見文では、上級学習者より日本語母語話者のほうがより多くの非限定的名詞修飾を使用する。つまり、非限定的名詞修飾の使用には、ジャンルによる違いも日本語母語話者と学習者の違いも見られた。

なぜ、意見文より説明文においてより多くの非限定的名詞修飾が使用されるのだろうか。そして、なぜ意見文では、学習者より日本語母語話者のほうがより多くの非限定的名詞修飾を使用するのだろうか。

#### 4.2. 質的分析

##### 4.2.1. 説明文における名詞修飾の使用

説明文では、名詞修飾がどのように使用されているのだろうか。非限定的名詞修飾の「待遇の機能」や、「談話展開機能」の使用が観察された。

まず、「待遇の機能」は、既出情報と関連付け、読み手にとって新しい情報を導入す

るなど、読み手への配慮を窺わせる機能のことを指す。益岡（1995）では、非限定的名詞修飾の機能で予備的、背景的情報を付加することによって、被修飾名詞を円滑に文脈に導入可能とされている。

例えば、例（1）では「パシフィコ横浜」や「港の見える丘公園」が紹介されている。JNS は段落の途中で、用途という背景的情報をつけて「パシフィコ横浜」を導入している。そして、直前に紹介した「パシフィコ横浜」との位置関係を非限定的名詞修飾で付加し「港の見える丘公園」を文脈に持ち込んでいる。

（1）また、大規模な展示会やコンサート、さらには重要な国際会議まで頻繁に行われるパシフィコ横浜も有名であろう。パシフィコ横浜のすぐそばにある港の見える丘公園はデートスポットとしても名高い。（j01-1）

このような非限定的名詞修飾は、観光情報としてよく用いられるものである。例えば、「横浜市観光情報サイト」でも、以下の例（2）と例（3）が見られた。

（2）横浜を代表する観光名所。このたび世界遺産に登録された富岡製糸場を、三渓園の創始者・原三渓が所有していたことをご存知ですか？（「生糸の歴史モデルコース1」横浜観光情報サイト）

（3）（横浜赤レンガ倉庫の紹介の次に）横浜赤レンガ倉庫に隣接する MARINE & WALK YOKOHAMA は、セレクトアイテムやインポートブランドを扱う個性的なショップ、ベイフロントの景観を生かしたテラス席があるレストランやカフェなどが揃うオープンモールです。（「みなとみらい21 新港地区」横浜観光情報サイト）

このような非限定的名詞修飾の使用は KNS にも見られた。例えば、例（4）では、「町の名前にも入っている」という非限定的名詞修飾を用いて、読み手に前文脈にすでに出現している「安東ハフェ町」を思い出させながら、「ハフェ」を説明している。

（4）実際、伝統を守っている村があります。「安東ハフェ町」という所がそうです。（中略）しかし、「安東ハフェ町」で一番有名なのは韓国のお面のお面です。町の名前にも入っている「ハフェ」というのは韓国のお面の種類のうち1つです。「安東ハフェ町」に行ったら、「ハフェ」だけではなく色々な韓国の伝統的なお面を見ることができます。（k05-1）

次に、「談話展開機能」は、説明文で紹介する場所や観光スポットそのものではなく、その背景にある歴史的出来事をコンパクトにまとめるために用いられる非限定的名詞修飾の機能を指す。

例えば、例（5）では、JNS は横浜港の紹介の際、開港の経緯を二重名詞修飾でコン

パクトにまとめている。

(5) 鎖国下にあった江戸幕府に対して開国を求めたアメリカの要求によって、横浜港が開港したのです<sup>2</sup>。(j09-1)

このような非限定的名詞修飾の使い方も、観光情報として多いパターンである。例えば、例(6)では、明治天皇が宿泊したという史実を名詞修飾で入れ込んでいる。また、例(7)では、固有名詞の「家康」に対し、2度にわたり、非限定的名詞修飾でその歴史的背景をコンパクトにまとめられている。

(6) (北海道の中島公園の紹介で)すすきののすぐ南に位置し、明治天皇が宿泊した豊平館や八窓庵、日本庭園などもある。(『ブラタモリ 5 札幌 小樽 日光 熱海 小田原』p28)

(7) 小田原合戦に参加した家康は、天正 18 (1590) 年 7 月、小田原合戦終結の 5 日後に総構の中に入り、城下町の姿を目にします。秀吉から関東の北条氏旧領を与えられた家康は、翌月には江戸に入り、総構を含む町づくりを開始。(『ブラタモリ 5 札幌 小樽 日光 熱海 小田原』p134)

このような使用は KNS にも見られた。

(8) テグでいちばんにぎやかな道であるドンソンロをはじめ、数多くの漢方薬を売っている店が集まっている薬令市、今は亡くなったテグ出身の有名な歌手であるキムカンソクを記念するために作られたキムカンソク道、そして通信社がたくさん集まっている通信社道などテーマがある道がたくさんあります。(k21-1)

#### 4.2.2. 意見文における非限定的名詞修飾の機能

一方、意見文では、「述定的装定」機能が観察されている。「述定的装定」は、形式的には被修飾名詞を名詞修飾で修飾する形をとっているが、意味内容的には、被修飾名詞を主題とする述定「主題—解説」表現に相当する(益岡 1995)。

例えば、例(9)では、「女性の社会進出が当たり前になってきた」は「現代」を修飾しているが、文の意味内容から言えば、「現代」を主題とし、「女性の社会進出が当たり前になってきた」を解説とする述定表現である。例(9)'に示すように、修飾部「女性の社会進出が当たり前になってきた」は主節「家庭での専業主婦として暮らすこと以外にも人生の選択肢はたくさんある」と因果関係にある。

(9) 女性の社会進出が当たり前になってきた現代においては、家庭での専業主婦として暮らすこと以外にも人生の選択肢はたくさんある。(j11-2)

<sup>2</sup> 「鎖国下」は原文では「鎖国化」となっている。

(9) 現代においては女性の社会進出が当たり前になってきたので、家庭での専業主婦として暮らすこと以外にも人生の選択肢はたくさんある。 (筆者改変)

JNS による意見文における非限定的名詞修飾の被修飾名詞で見ると、このような「現代、現代社会」が7例、「今」が3例あり、上位に上がっている。いずれも主節の事態と名詞修飾節の事態の関係を名詞修飾で表現している。

日本語の社説文では、「現状」を被修飾名詞にした名詞修飾がしばしば見られる。例えば、例(10)でも文の意味内容から言えば、「現状」を主題とし、「少子化に歯止めをかけられていない」を解説とする述定表現である(例(10)')。

(10) 政府は、少子化に歯止めをかけられていない現状をより深刻に受けとめるべきだ。(毎日新聞 2019年12月13日 東京朝刊)

(10)' 政府は、現状は少子化に歯止めをかけられていないので、より深刻に受けとめるべきだ。(筆者改変)

しかし、KNS には、このような「現代、現代社会」「今」などが被修飾名詞になる使用例が見られない。JNS が書いた例(9)と同様な見解を示す際、例(11)'ではなく、例(11)のように「主題—解説」表現を用いている。

(11) 現代には高学歴でいい職場で働くキャリアウーマンの数が増加して、もはや女性が男性に支配されることがほとんどなくなって女性一人でも豊かな生活を営めるようになった。 (k20-2)

(11)' 高学歴でいい職場で働くキャリアウーマンの数が増加した現代、もはや女性が男性に支配されることがほとんどなくなって、女性一人でも豊かな生活を営めるようになった。(筆者改変)

このように、作文のジャンルによって、非限定的名詞修飾の機能が異なることがわかった。説明文では、非限定的名詞修飾の「待遇の機能」や、「談話展開機能」が観察され、JNS にも KNS にもそれらの使用が見られた。一方、意見文では「述定的装定」機能が観察され、JNS にはその使用が見られたが、KNS には見られなかった。

#### 4.3. 考察

##### 4.3.1. 説明文が意見文より非限定的名詞修飾多用の理由

なぜ、説明文が意見文より多くの非限定的名詞修飾が使用されているのだろうか。説明文と意見文における非限定的名詞修飾の機能が異なるからと考えられる。意見文は読み手に取って既知の情報に基づき意見を述べるのに対し、説明文は読み手にとって新情報を提示しながら説明する。そのため、説明文が意見文より非限定的名詞修飾の使用が多いのではないだろうか。

#### 4.3.2. KNS「述定的装定」機能不使用の理由（意見文）

ではなぜ、意見文において、KNSに「述定的装定」機能の非限定的名詞修飾の使用が見られなかったのだろうか。

金（2016）では、日本語は「名詞中心の集中型構造」を好み、韓国語は「動詞中心の分散型構造」を好むと分析している。日本語の「修飾語＋名詞」からなる用言性を含む「（重）名詞句」（例：美味しい食べ方してますね。）に集中する語彙的な意味の「重さ」を、韓国語では「名詞」＋副詞（形）＋実質用言」（例：잘 맛있게 먹네요./本当に美味しく食べますね。）のそれぞれの単語に割合均等に分散させている。つまり、韓国語では、意味的に主述関係にあるものは構文的にも主述関係の形で述べるのが基本であると指摘している。

一方、同JCK作文コーパスに収録されているCNSの意見文を調査したところ、CNSにも「述定的装定」機能の非限定的名詞修飾の使用が見られなかった。沖森ほか（2014）では、日本語は名詞的表現を好み、中国語は動詞・形容詞的表現を好むとしている。日本語では名詞句で表現されるもの（例：本を買うお金がない。）は中国語では動詞句（例：没有钱买书。/本を買うのにお金がない。）や形容詞句で表現することがある。

これらのことから考えると、KNSに「述定的装定」機能の非限定的名詞修飾の使用が見られなかったのは、学習者の母語である韓国語が影響している可能性がある。

### 5. まとめと今後の課題

本研究はJCK作文コーパスを用いて、JNSとKNSによる説明文と意見文を調査した結果、JNSとKNSどちらも意見文より説明文でより多くの非限定的名詞修飾を使用することがわかった。そして、JNSとKNSとで非限定的名詞修飾の使用傾向は、説明文では同じであるが、意見文ではJNSのほうがより多くの非限定的名詞修飾を使用することが明らかになった。

作文のジャンルによる使用傾向の違いは、使用される非限定的名詞修飾の機能が異なるからであると考えられる。JNSは説明文では、「待遇の機能」や、「談話展開機能」を使用する一方、意見文では「述定的装定」などの機能を使用している。

意見文でJNSよりKNSの非限定的名詞修飾の使用が少ないのは、「述定的装定」機能を使うことがなく、韓国語の影響の可能性もある。

本研究は、ストーリー描写以外の複数のジャンルの作文を調査したことで、個人内におけるジャンル別の非限定的名詞修飾の使用傾向を明らかにした。そして、これまで分析が及んでいない、非限定的名詞修飾の機能のジャンルによる違いを考察した。

しかし、今回調査した作文は、2つのジャンルそれぞれ1つのトピックのみである。使用される非限定的名詞修飾がトピックに左右されている可能性がある。今後、同じジャンル内で複数のトピックの作文を用いて更に検証を重ねていきたい。

### 6. 教育への示唆

日本語教育の現場における非限定的名詞修飾の扱い方については、上級で長い文章を構成する練習と（庵・宮部 2017）、ストーリー描写の作文で中級学習者を対象に明示的指導を行うことが必要である（徐 2019a, 2019b）とされている。

本研究で、説明文と意見文における非限定的名詞修飾の使用実態を明らかにしたこ

とで、中上級学習者を対象に非限定的名詞修飾の機能についての明示的な指導を行う際には、作文のジャンルによる違いという観点を取り入れると効果的だと考えられる。また、日本語特有の非限定的名詞修飾を用いる表現を読解などで導入し、意識的に使用を促すことも有効だと考えられる。

### 参考資料

NHK「ブラタモリ」制作班（監修）（2016）『ブラタモリ 5 札幌 小樽 日光 熱海 小田原』角川書店。

毎日新聞「出生 90 万人割れへ 少子化対策の総点検必要」2019 年 12 月 13 日 東京朝刊。

「生糸の歴史モデルコース 1」横浜観光情報サイト

(<https://www.welcome.city.yokohama.jp/courses/course.php?mid=m029>)

最終閲覧 2020 年 2 月 7 日。

「みなとみらい 21 新港地区」横浜観光情報サイト

(<https://www.welcome.city.yokohama.jp/courses/course.php?mid=m005>)

最終閲覧 2020 年 2 月 7 日。

### 参考文献

庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク。

庵功雄、張志剛（2017）「第 1 章 正確で自然な立場の選び方」石黒圭（編）『現場に役立つ日本語教育研究 3 わかりやすく書ける作文シラバス』くろしお出版、3-18。

庵功雄、宮部真由美（2017）「第 2 章 正確で自然な時間の示し方」石黒圭（編）『現場に役立つ日本語教育研究 3 わかりやすく書ける作文シラバス』くろしお出版、19-36。

石黒圭（編）（2017）『現場に役立つ日本語教育研究 3 わかりやすく書ける作文シラバス』くろしお出版。

大関浩美（2008）『第一・第二言語における日本語名詞修飾節の習得過程』くろしお出版。

沖森卓也、蘇紅（編）（2014）『日本語ライブラリー 中国語と日本語』朝倉書店、17-18。

奥川育子（2011）「物語談話における連体修飾節」『日本語教育』55、韓国日本語教育学会、129-142。

金恩愛（2016）「日本語と韓国語の名詞についての研究ノート」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25-1、43-49。

徐乃馨（2018）「中級日本語学習者のストーリー描写における非制限的名詞修飾の使用

- 実態—母語の類型論的な違いに着目して—」『2018 年度日本語教育学会秋季大会（於沼津）予稿集』日本語教育学会、232-237.
- 徐乃馨（2019a）「中上級日本語学習者の物語描写における名詞修飾の使用実態—名詞修飾の習得研究のための新たな分類基準を用いて—」『小出記念日本語教育研究会論文集』27、小出記念日本語教育研究会、21-36.
- 徐乃馨（2019b）「日本語学習者のストーリー描写における名詞修飾の使用実態—作業課題・習熟度・母語による違いに注目して—」『日本語／日本語教育研究』10、日本語／日本語教育研究会.
- 徐乃馨（2019c）「非限定的名詞修飾の日中対照研究—状態性の観点から—」『政大日本研究』16、台湾政治大学日本語学科、117-144.
- 徐乃馨（2019d）「日本語学習者の名詞修飾の使用の変化—LARP at SCU の分析結果から—」『第 28 回小出記念日本語教育研究会（於東京）予稿集』小出記念日本語教育研究会、48-49.
- 永谷直子（2017）「第 3 章 正確で自然な判断の表し方」石黒圭（編）『現場に役立つ日本語教育研究 3 わかりやすく書ける作文シラバス』くろしお出版、37-56.
- 日本語記述文法研究会（編）（2008）『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』くろしお出版.
- 益岡隆志（1995）「連体節の表現と主名詞の主題性」益岡隆志、野田尚史、沼田善子『日本語の主題と取り立て』くろしお出版、139-153.
- 増田真理子（2001）「〈談話展開型連体節〉—『怒った親は子どもをしかった』という言い方—」『日本語教育』109、日本語教育学会、50-59.
- 増田真理子（2002）「学習者はどのような連体修飾節を使っているか—日本語学習者が産出したテキストの分析から—」『多摩留学生センター教育研究論集』3、東京農工大学留学生センター・電気通信大学留学生センター、43-50.
- 矢吹ソウ典子（2013）「日本語学習者・母語話者によるストーリーテリングでの連体修飾節の用法」『言語文化と日本語教育』46、お茶の水女子大学日本言語文化学会、1-10.

## 謝辞

本稿は、博士論文の一部、及び日本語教育学会 2019 年度春季大会における発表内容を加筆修正したものです。発表・執筆にあたり多くのご指導をくださった奥野由紀子先生、長谷川守寿先生、大島資生先生、会場内外で貴重なご助言をくださった皆様、査読してくださった先生方に厚くお礼申し上げます。また、本研究は、JCK 作文コーパスを利用して行われたものである。製作者、関係者の皆様に深く感謝いたします。

（じょ だいけい・東京都立大学博士研究員）